

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報 2014 年第 44 週 (10/27~11/2)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

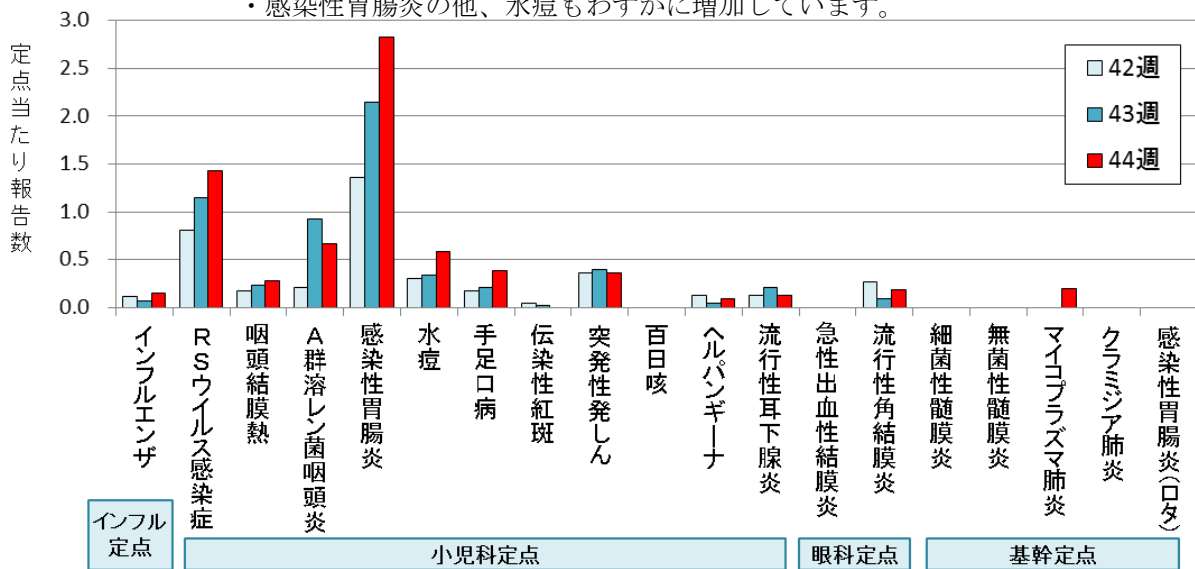
- ◇ 県内にノロウイルス食中毒注意報が発令されました。→トピックス
- ◇ 腸管出血性大腸菌感染症患者の発生がありました。→トピックス
- ◇ RSウイルス感染症は高いレベルで推移しています。

■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名		疾患名
警報レベル	なし	注意報レベル	なし

- 直近 3 週の比較
 - ・ RSウイルス感染症はさらに増加しています。
 - ・ 感染性胃腸炎の他、水痘もわずかに増加しています。



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 8 例
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 4 例（O157：4 例）
- 4 類感染症：つつが虫病 1 例、レジオネラ症 2 例
- 5 類感染症：水痘（入院例）2 例、梅毒 1 例

● 2014 年累計

1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	378 例	
3 類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症 36 例
4 類感染症	E 型肝炎	3 例	デング熱 5 例
	A 型肝炎	1 例	マラリア 1 例
	チクングニア熱	1 例	レジオネラ症 18 例
	つつが虫病	2 例	
5 類感染症	アメーバ赤痢	13 例	水痘（入院例）3 例
	急性脳炎	1 例	梅毒 10 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	破傷風 1 例
	後天性免疫不全症候群	20 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例
	ジアルジア症	1 例	風しん 2 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5 例	麻しん 3 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	18 例	

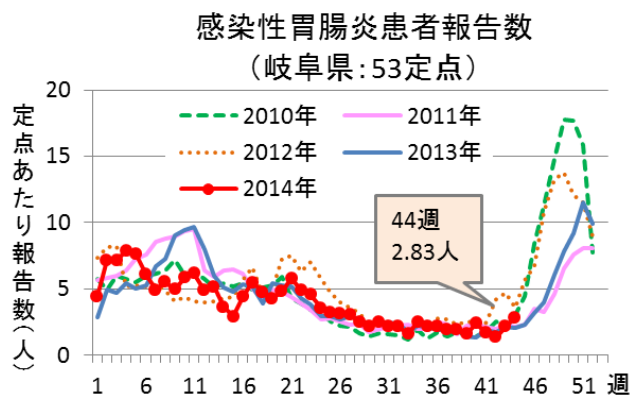
全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報 (IDWR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■トピックス
《感染性胃腸炎》

◆ 県内にノロウイルス食中毒注意報が発令されました

県内の小児科定点医療機関（53 定点）からの感染性胃腸炎患者の報告数が増加傾向にあることから、岐阜県は県内にノロウイルス食中毒注意報を発令しました。岐阜市では先週に同注意報が発令されています。ノロウイルスの流行に備え、予防対策が必要です。



保健所別感染性胃腸炎患者報告数(53 定点)
() 内は定点あたり報告数

保健所	41 週	42 週	43 週	44 週
岐阜市	29 (3.22)	11 (1.22)	33 (3.67)	26 (2.89)
岐 阜	23 (2.30)	22 (2.20)	30 (3.00)	49 (4.90)
西 濃	7 (0.78)	2 (0.22)	6 (0.67)	8 (0.89)
関	10 (2.00)	17 (3.40)	15 (3.00)	27 (5.40)
中 濃	1 (0.20)	2 (0.40)	0 (-)	4 (0.80)
東 濃	5 (1.00)	12 (2.40)	13 (2.60)	21 (4.20)
恵 那	11 (2.75)	6 (1.50)	12 (3.00)	11 (2.75)
飛 騨	4 (0.67)	0 (-)	5 (0.83)	4 (0.67)
岐阜県	90 (1.70)	72 (1.36)	114 (2.15)	150 (2.83)

ノロウイルス感染予防のポイント

ウイルスは目に見えません！十分な予防が必要です！

★手洗いの徹底

……トイレの後、調理前、食事前、汚物処理後などには、石けんと流水でしっかり手を洗い、手についたウイルスを落とします。手洗いは最も重要な予防方法です。

★汚物の処理は適切に

……患者の嘔吐物や便を処理する場合は、使い捨てのマスクや手袋を使用し、ペーパータオルなどで静かに拭き取った後、塩素系消毒薬で消毒を行います。

★調理器具などの消毒は次亜塩素酸ナトリウムまたは熱湯で

……調理器具、患者の便や嘔吐物で汚染された衣類・タオルなどは、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系消毒薬）または 85℃・1 分間以上の加熱により消毒します。消毒用エタノール（アルコール）は、ノロウイルスにはあまり効果がないといわれています。

★感染症法における取扱い

感染性胃腸炎は、感染症法において 5 類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約 3,100 か所（岐阜県 53 か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。

届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouh-ou-kijun.html>（保健医療課 HP）

《腸管出血性大腸菌感染症》

◆ 冬季も注意が必要です

第44週に県内で腸管出血性大腸菌感染症患者が4例報告されています。

例年、患者発生のピークとなる夏季を過ぎた後も、年間を通じて患者発生がみられますので注意が必要です。

◆ 食肉は十分に加熱を

食肉を生または加熱不十分の状態を食べることにより腸管出血性大腸菌に感染することがあります。今年7月、県内の飲食店でも食肉に関連した腸管出血性大腸菌 O157 による食中毒が発生しています。

食肉は食肉処理の過程で腸管出血性大腸菌やその他の病原菌の汚染を受けることがあるため、鮮度にかかわらず生食は危険です。食肉は内部まで十分に加熱して食べるのが大切です。

◆ 保育所や幼稚園では集団感染に注意

腸管出血性大腸菌は、便を介して人から人へ感染します（糞口感染）。保育所や幼稚園など乳幼児の集団生活の場では、集団感染を起こすことがあるため注意が必要です。

予防対策としては、用便後や食事前、おむつ交換後の手洗いの徹底、汚物の適切な取扱いや消毒など、ノロウイルス感染症対策と共通しています。日常的な感染予防対策を改めて徹底し、集団感染を予防しましょう。

また、乳幼児の場合、家庭内でも感染が拡大しやすいため同様の注意が必要です。

★腸管出血性大腸菌感染症とは

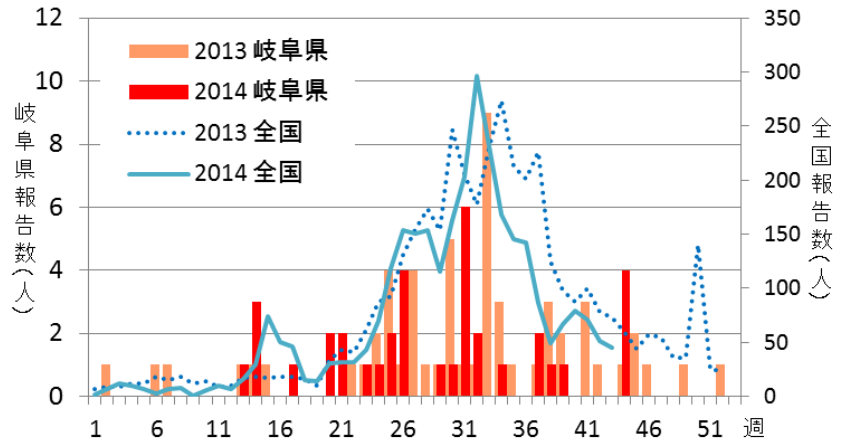
ベロ毒素を産生する大腸菌による感染症で、腹痛・下痢・血便などを主症状とします。多くの場合、3～5日の潜伏期の後、激しい腹痛をともなう頻回の水様便の後に、血便となります。有症者の約5%が、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。

★感染症法における取扱い

腸管出血性大腸菌感染症は、感染症法において3類感染症全数把握対象疾患に定められており、患者を診断した医師は直ちに保健所に届け出なければなりません。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouhou-kijun.html>（保健医療課 HP）

腸管出血性大腸菌感染症患者週別報告数



腸管出血性大腸菌感染症 年間患者報告数

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年※
岐阜県	46	85	64	57	36
全国	4,135	3,939	3,770	4,046	3,691

※2014年 岐阜県：1～44週、全国：1～43週